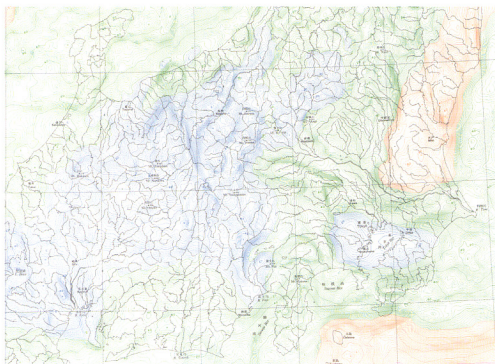
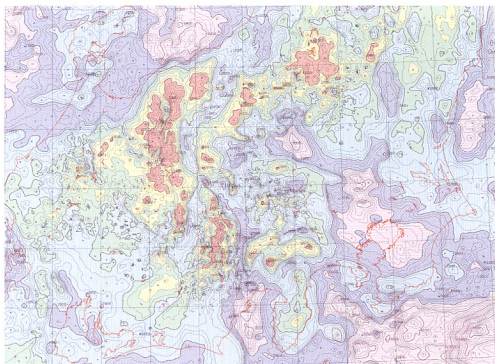
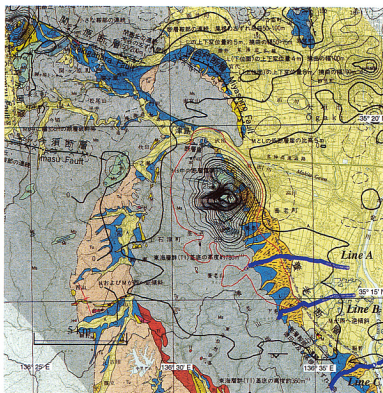


特集：地球物理図の周辺では



1. 100万分の1日本重力図. <駒澤正夫>

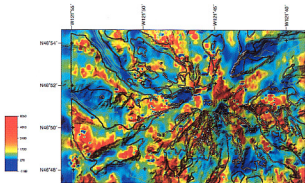
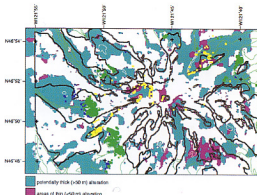
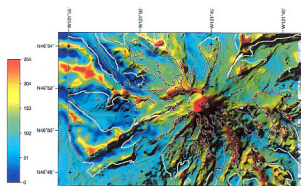
2. 中部日本の重力基盤図. 密度差は $0.5\text{g}/\text{cm}^3$ を仮定. コンター間隔は250m. <駒澤正夫>



3.

養老断層地域の磁化強度分布図と活断層ストリップマップ(大熊ほか, 1998)。コンター間隔: 5×10^{-2} A/m, 青の丸印 (Line A, B, C) は高密度重力探査の測点を示す。養老断層と鈴鹿山地北端において高磁化強度域が分布し美濃帯中の緑色岩(苦鉄質火山岩)の露出とよい一致を見せている。養老山地東縁部では高磁化強度域の東縁と伏在する養老断層の推定位置とに対応がみられる。

<大熊茂雄>



4.

米国ワシントン州レイニア火山における高分解能空中物理探査 (Finn *et al.*, 1998),

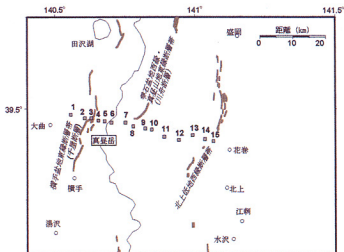
a (左上): 全磁力異常,

b (左下): 見掛け比抵抗図(周波数: 837Hz),

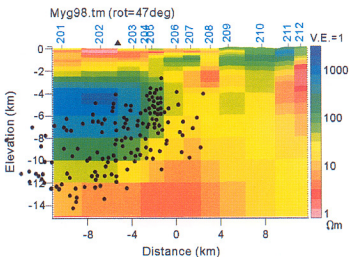
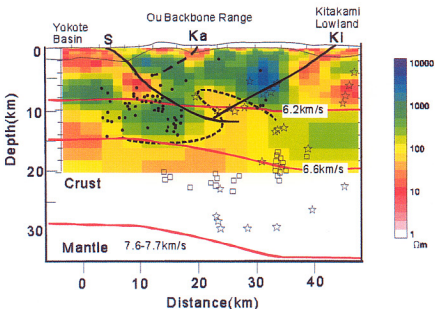
c (右上): 変質地域推定図

aとbのデータの相関値よりcが推定された。レイニア火山では山頂付近が氷河で覆われているため、地表地質調査のみでは変質域がわからない部分がある。

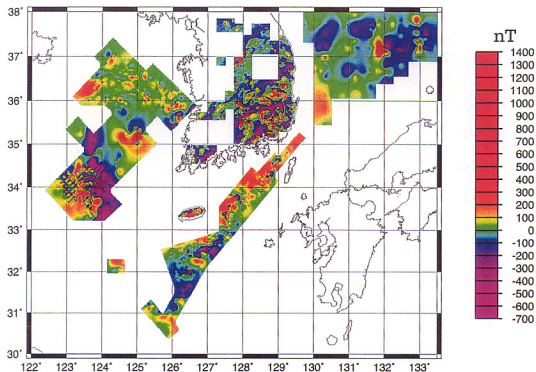
<大熊茂雄>



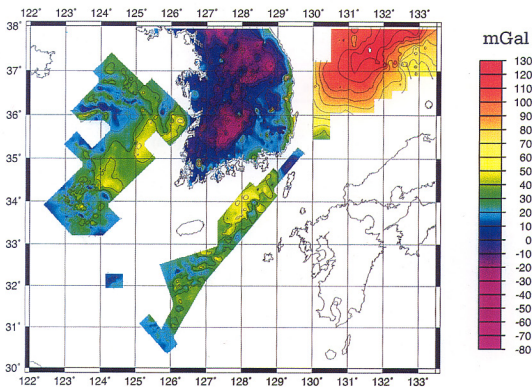
5. (a) 東北地方脊梁でおこなわれたMT法探査測線 (1998年電磁気共同観測MTデータ整理委員会, 1999) [←].
- (b) プレリミナリーな2次元解析結果 (深度20kmまでの東西断面) [↓]. S, Ka, Kiは、それぞれ千屋断層, 川舟断層, 北上低地西縁断層を表わす。破線で示された曲線は、地殻内の低比抵抗層の上面を表す。図中の黒実線および赤実線は、それぞれ反射法地震探査による反射面、屈折法地震探査による速度構造境界を表す。屈折法の最上部層は、P波速度が(4.3-2.1 km/s)の低速度層である。小さな黒丸、白抜ききの四角、星印は、それぞれ、自然地震の震源分布、自然地震のS波反射面の分布、人工地震による地震波散乱体の分布を示す(浅野, 1999). <小川康雄>



6. 宮城県北部の群発地震地域の2次元解析結果 (南西-北東断面) (光畑ほか, 1999). 黒丸は、河野ほか(1993)による震源分布. <小川康雄>



7. 韓国とその周辺海域の磁気異常図 (Park and Lee, 1996) <大久保泰邦>



8. 韓国とその周辺海域のブーゲ異常図 (Cho, et al., 1997) <大久保泰邦>